

# 特別支援学校進路指導担当教員の研修ニーズに関する調査

—研修内容の関心度と研修条件の影響に関する分析から—

○藤井 明日香 川合 紀宗 落合 俊郎  
 (高松大学発達科学部) (広島大学教育学研究科) (大和大学教育学部)  
 KEY WORDS: 進路指導担当教員 研修ニーズ 研修条件

## (目的)

特別支援学校の就労支援を担う進路指導担当教員の専門性を獲得・向上させる学習機会は量的にも質的にも十分でないことが指摘されている(藤井, 2011; 藤井・川合・落合, 2012)。進路指導担当教員が求めている研修の内容には、組織対応及び連携、生徒の能力開発、支援技術の向上、資源開発、就労移行支援の動向の把握と支援制度の活用に関する内容がある。しかし肝心な研修に参加機会の課題には、研修機会の地域格差があることや研修参加に対する支援体制の構築、研修対象者の拡充などがある(藤井・川合・落合, 2013)。これまでの先行研究では研修の現状や課題、その内容については明らかにされているが、進路指導担当教員が受講しても良いと考える研修の特徴については検討されていない。よって本研究では、進路指導担当教員が専門性向上研修として、受講しても良いと考える研修の条件について明らかにすることを目的とする。

## (方法)

本研究は、全国の特別支援学校(知的障害)622校の進路指導担当教員各校2名、計1244名を調査対象に、郵送法を用いて自記式質問紙調査を実施した。調査期間は2014年3月5日から3月30日であった。ニーズの高い研修の特徴を明らかにするために、コンジョイント分析を用いた。コンジョイント分析とは、属性と水準の組み合わせをモデルとして、回答者に評価してもらうことで、それぞれの属性と水準の影響度を測ると同時に最適であると考えられるモデルを明らかにする分析手法である。この分析では、対象の価値を決定する要因(因子)と条件を具体的に記述した内容を組み合わせたモデルを回答者に複数提示し、それらのモデルを評価してもらうことで、最も望ましいモデルに影響を与えている条件を明らかにする。本調査では、研修要因とその水準として、①学習形態(グループワーク形式、フィールドワーク形式、講義形式)、②研修内容の関心度(全てに関心がある、一部に関心がある)、③研修場所(通勤圏内、隣接県、新幹線等を使う)、④研修期間(半日程度、1日間、2日間)、⑤費用負担(自己負担なし、5千円以下の自己負担、1万円以下の自己負担)を設定した。この5つの要因とその水準を基に直行計画で決定された16のモデルを回答者に提示し、回答者が受講しても良いと考える研修条件として、最も望ましい条件を10点として10段階評価で評点を依頼した。結果の解釈に用いる効用値とは、属性の水準が全体評価に寄与する値であり、本研究では正の値の場合は、その水準が「望ましいと考えられている」といえる。重要度は、全要因の中で、各要因が相対的にどの程度重要視されているかを示す指標である。高い重要度は望ましいと評価することに高い影響を与えている。

## (結果)

調査の結果、353名(28.3%)から回答があり、欠損値のない有効回答者数は322名(25.9%)であった。Pearson'sRは $r=0.994$ 、kendallのタウも $0.917$ であり、いずれの分析でも高い信頼性が示された。各項目の効用値と重要度をそれぞれTable 1, Fig.1へ示す。

受講しても良いと考える研修条件として影響を与える要

因の重要度は、①学習形態=14.33、②研修内容の関心度=11.27、③研修場所=28.11、④研修期間=14.80、⑤費用負担=31.49であった。研修要因の水準は、①学習形態では、「グループワーク形式」が負の値であり、②研修内容は「一部の内容に関心がある」、③研修場所では通勤圏内以外では負の値を示した。また④研修期間では、半日以上では負の値を示し、⑤費用負担については自己負担なし以外の要件は負の値を示した。

Table1 効用値

要因	水準	ユーティリティ推定値	
①学習形態	グループワーク形式	-0.071	
	フィールドワーク形式	0.071	
	講義形式	0.000	
②研修内容の関心度	全ての内容に関心がある	0.339	
	一部の内容に関心がある	-0.339	
③研修場所	通勤圏内	1.180	
	隣接県	-0.077	
	新幹線等を使う遠方	-1.103	
④研修期間	半日程度	0.519	
	1日間	-0.072	
	2日間	-0.447	
⑤費用負担	自己負担なし	1.398	
	5千円以下の自己負担	-0.330	
	1万円以下の自己負担	-1.068	
		(定数)	4.911

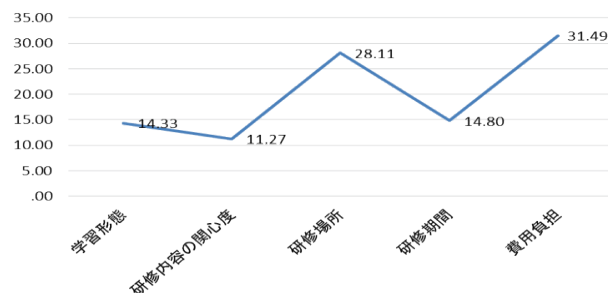


Fig.1 重要度

## (考察)

本研究の結果、進路指導担当教員の専門性向上研修として受講しても良いと考える研修の条件とは、研修場所と研修費用の負担の有無が高い影響を与えていることが明らかになった。各要因の水準で正の値を示す効用値の結果から、受講しても良いと考える研修の条件は、学習形態がフィールドワーク形式か講義形式であり、すべてに関心がある研修内容かつ通勤圏内で半日程度が開催され、費用負担のないものであるといえる。進路指導担当教員は、その業務内容や役割範囲が広く、多忙であることが指摘されており、進路指導担当教員数も十分に確保されているといえず、時間的な制限や人的制限も課題とされている。また藤井ら(2013)では、就労移行支援の実施に関連する費用負担についても課題として指摘されている。こうした現状によって専門性向上研修として、より身近な環境で、費用の自己負担なく半日程度で学びたい内容がピンポイントに学べる研修機会が求められているといえる。

## (主要文献)

藤井明日香・川合紀宗・落合俊郎(2013)特別支援学校(知的障害)高等部進路指導担当教員の専門性向上に関する望ましい研修内容及び研修形態・受講者の研修課題及び改善点に関する自由記述の分析から-特別支援教育実践センター研究紀要,11,101-110.

(FUJII Asuka, KAWAI Norimune, OCHIAI Toshiro)